「訓練校で思うこと」

やきもの成形科成形コース　　喜田　美智子

入校して三ヶ月が経ち、同寸法の製品を正確に製作することの難しさを日々感じています。それと同時に、学ばなければならない技術と知識の多さに圧倒される毎日です。ここは、学校ではなく訓練校なのだなと改めて思います。手に職をつけるということは、努力練習なくしてはありえないと再確認しました。水挽きの課題が始まった時、毎回同じコンディションの土を準備することの重要性を学びました。土の良し悪しで、ろくろの挽き易さ、挽いた後の形がこんなにも違うのかと驚きました。先生方が常日頃おっしゃっている、良い土、道具を使用しないと練習にならないという意味を痛感しています。毎回同じ様にやっているつもりでも、上手くできる時とできない時があり、そうなると当然、作る形も違ってきてしまいます。そこで先生の言葉、「一つ前に戻って考えてみる。」土殺しは充分か？菊もみは？土の固さは？一つ一つの工程が何もかも大切です。集中力を高め、機敏に作業し、迅速かつ丁寧に製作する。この技術を会得するには練習しかないと思いました。初心者で入校した私は、人一倍の努力が必要です。

実技の訓練ともう一つ、大切なものがあります。“気働き”です。先生方が口を酸っぱくしておっしゃっている言葉です。毎日の課題に追われ、つい怠ってしまうこの気働き。常に周囲を観察し、先を読み、行動することだと思うのですが、これはどんな仕事に就いても大切だと思います。就職するにしても独立するにしても、自分一人では仕事は成立しません。上司、同僚、取引先、そしてお客様がいます。気働きができてこそ、習得した技術が生かされるのだと感じます。

この三ヶ月を振り返ってみると、とても充実した日々を過ごしてきました。厳しい実習ですが、いろんな年代の仲間と切磋琢磨できる環境を与えて頂いたことに感謝したいと思います。自分の年齢を考えると遅い出発だということは、充分承知しています。でも私は、この訓練校を受験し、合格しました。あきらめたら何も始まらないし、何も変わりません。決断するのも自分ですし、実行するのも自分です。常に前進していたいと思うのです。この思いを胸に、今後の訓練、そして就職活動もがんばっていきたいと思います。